

# CASBEE® - 建築(新築)

## 評価結果

使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日本通運株式会社 東日本医薬品	階数	地上5F
建設地	埼玉県久喜市	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	150 人
地域区分	5地域	年間使用時間	5,500 時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年1月 予定	評価の実施日	2019年8月31日
敷地面積	35,058 m <sup>2</sup>	作成者	大成建設 嶋田
建築面積	16,609 m <sup>2</sup>	確認日	2019年9月18日
延床面積	64,850 m <sup>2</sup>	確認者	大成建設 椋山



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.0**

環境品質 Q

環境負荷 L

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

### 2-3 大項目の評価(レダ-チャート)

Q2 サービス性能: 5

Q1 室内環境: 2

Q3 室外環境(敷地内): 2

LR1 エネルギー: 1

LR2 資源・マテリアル: 2

LR3 敷地外環境: 2

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q 環境品質** Q のスコア = 3.0

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.6

**LR 環境負荷低減性** LR のスコア = 3.0

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	医薬品保管の倉庫であり、温度管理が必要となるため、外皮に断熱性の高い、断熱サンドイッチパネルを採用した。	その他 特になし
Q1 室内環境	断熱性能の高い外皮を採用。それ以外は通常的环境としている。	Q2 サービス性能 天井高を高く、またリフレッシュできるスペースを十分に確保した。
Q3 室外環境(敷地内)		緑地を敷地面積の約23%を確保。(屋上も利用)
LR1 エネルギー	特になし	LR2 資源・マテリアル 有害物質を含む建築材料を極力使用しない。
		LR3 敷地外環境 特になし

CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート 実施設計段階						
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
<b>Q 建築物の環境品質</b>						<b>3.0</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.30</b>		-	<b>2.8</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15		-	<b>3.0</b>
1.1 室内騒音レベル		<b>3.0</b>	0.40	<b>3.0</b>	-	
1.2 遮音		<b>3.0</b>	0.40		-	
1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
<b>2 温熱環境</b>		<b>2.8</b>	0.35		-	<b>2.8</b>
2.1 室温制御		<b>3.5</b>	0.50		-	
1 室温		3.0	0.38	3.0	-	
2 外皮性能	イソバンドを用いて、高い断熱性能を確保した	5.0	0.25	3.0	-	
3 ソーン別制御性		3.0	0.38		-	
2.2 湿度制御		<b>1.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-	
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-	
<b>3 光・視環境</b>		<b>2.5</b>	0.25		-	<b>2.5</b>
3.1 昼光利用		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 昼光率		3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口		-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備		3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-	
3.3 照度		<b>3.0</b>	0.15	<b>3.0</b>	-	
3.4 照明制御		<b>1.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-	
<b>4 空気質環境</b>		<b>3.0</b>	0.25		-	<b>3.0</b>
4.1 発生源対策		<b>3.0</b>	0.50		-	
1 化学汚染物質		3.0	1.00	3.0	-	
4.2 換気		<b>3.0</b>	0.30		-	
1 換気量		3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能		3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮		3.0	0.33	3.0	-	
4.3 運用管理		<b>3.0</b>	0.20		-	
1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	0.50		-	
2 喫煙の制御		3.0	0.50		-	
<b>Q2 サービス性能</b>			<b>0.30</b>		-	<b>3.7</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.5</b>	0.40		-	<b>3.5</b>
1.1 機能性・使いやすさ		<b>3.0</b>	0.40		-	
1 広さ・収納性	倉庫エリアを確保しつつ、事務所エリアも適切な面積を確保した	4.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応		2.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画		3.0	0.33		-	
1.2 心理性・快適性		<b>3.6</b>	0.30		-	
1 広さ感・景観		3.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース	各階に設け、短時間の休憩中にも利用しやすい計画とした	5.0	0.33		-	
3 内装計画		3.0	0.33		-	
1.3 維持管理		<b>4.0</b>	0.30		-	
1 維持管理に配慮した設計	内・外装ともに防汚性・防水性等に配慮した仕上げを採用した	5.0	0.50		-	
2 維持管理用機能の確保		3.0	0.50		-	
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>4.1</b>	0.30		-	<b>4.1</b>
2.1 耐震・免震・制震・制振		<b>5.0</b>	0.50		-	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)	耐震性50%増を有している	5.0	0.80		-	
2 免震・制震・制振性能	免震構造を採用した	5.0	0.20		-	
2.2 部品・部材の耐用年数		<b>3.2</b>	0.30		-	
1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.20		-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.20		-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.10		-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔		3.0	0.10		-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	耐用年数が長い材質を採用した	4.0	0.20		-	
6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.20		-	
2.4 信頼性		<b>3.2</b>	0.20		-	
1 空調・換気設備		3.0	0.20		-	
2 給排水・衛生設備		3.0	0.20		-	
3 電気設備	非常発電設備の設置、重要設備系の電源の二重化	4.0	0.20		-	
4 機械・配管支持方法	耐震クラスAを採用した	4.0	0.20		-	
5 通信・情報設備		2.0	0.20		-	

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.8</b>	0.30	-	-	<b>3.8</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>3.4</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	倉庫エリア、事務エリアそれぞれに適当な階高を確保した	<b>5.0</b>	0.60	<b>3.0</b>	-	
2	空間の形状・自由さ		1.0	0.40	<b>3.0</b>	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>		事務所2.9kN/m <sup>2</sup> 、倉庫15.0kN/m <sup>2</sup> 。平均14.59kN/m <sup>2</sup> 。	<b>5.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性	設備バルコニー、屋上に機器を設置し、外周部から更新可能とした	4.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保	設備バルコニー、屋上に空間を確保した	4.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>2.6</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 地域性への配慮、快適性の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>3.2 敷地内温熱環境の向上</b>			<b>3.0</b>	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	<b>0.40</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 建物外皮の熱負荷抑制</b>		BPI <sub>m</sub> = 0.61	<b>5.0</b>	0.01	-	-	<b>5.0</b>
<b>2 自然エネルギー利用</b>			<b>3.0</b>	0.12	-	-	<b>3.0</b>
<b>3 設備システムの高効率化</b>		[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.80	<b>3.0</b>	0.62	-	-	<b>3.0</b>
<b>4 効率的運用</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	<b>3.0</b>
集合住宅以外の評価			<b>3.0</b>	1.00	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	1.00	-	-	
集合住宅の評価			<b>3.0</b>	-	-	-	
4.1	モニタリング		3.0	-	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.2</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
<b>1.1 節水</b>		省水型機器を使用した	<b>4.0</b>	0.40	-	-	
<b>1.2 雨水利用・雑排水等の利用</b>			<b>3.0</b>	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.1</b>	0.60	-	-	<b>3.1</b>
<b>2.1 材料使用量の削減</b>			3.0	0.10	-	-	
<b>2.2 既存建築躯体等の継続使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</b>			3.0	0.20	-	-	
<b>2.5 持続可能な森林から産出された木材</b>			2.0	0.10	-	-	
<b>2.6 部材の再利用可能性向上への取組み</b>		躯体と仕上げが容易に分別できるように計画した	4.0	0.20	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.6</b>	0.20	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 有害物質を含まない材料の使用</b>		指定化学物質を含まない	<b>5.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.2 フロン・ハロンの回避</b>			<b>3.0</b>	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)		3.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	<b>0.30</b>	-	-	<b>3.0</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>		標準100に対して89	<b>3.4</b>	0.33	-	-	<b>3.4</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>2.6</b>	0.33	-	-	<b>2.6</b>
<b>2.1 大気汚染防止</b>			<b>3.0</b>	0.25	-	-	
<b>2.2 温熱環境悪化の改善</b>			<b>2.0</b>	0.50	-	-	
<b>2.3 地域インフラへの負荷抑制</b>			<b>3.5</b>	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐車場・駐輪場の計画を適切に行った	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.0</b>	0.33	-	-	<b>3.0</b>
<b>3.1 騒音・振動・悪臭の防止</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	0.33	-	-	
2	振動		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭		3.0	0.33	-	-	
<b>3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		<b>3.0</b>	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
<b>3.3 光害の抑制</b>			<b>3.0</b>	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	

# CASBEE埼玉県 重点項目シート


使用評価ソフトバージョン

CASBEE埼玉県2016年版

1 建物概要				
建物名称	日本通運株式会社 東日本医薬品センター	BEE	1.0	BEEランク

2 重点項目の評価				
ライフサイクルCO2の削減のスコア 緑の保全・創出のスコア				
3.4	+	2.6	=	6.0 
重点項目の各スコアの合計点				
がんばろう 6.0未満 	良い 6.0以上 	非常によい 6.8以上 	すばらしい 8.0以上 	

3 重点項目についての環境配慮概要			
<b>(1) ライフサイクルCO2の削減</b>		スコア平均	3.4
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
LR3 敷地外環境対策	1. 地球温暖化への配慮	スコア	3.4
ライフサイクルCO2が、運営面において一般的な建物と比較して下回るよう計画した。			
<b>(2) 緑の保全・創出</b>		スコア平均	2.6
< CASBEE埼玉県の対応する配慮項目とスコア >			
Q3 室外環境(敷地内)	1. 生物環境の保全と創出	スコア	3.0
Q3 室外環境(敷地内)	3.2 敷地内温熱環境の向上	スコア	3.0
LR3 敷地外環境	2.2 温熱環境悪化の改善	スコア	2.0
外構と屋根面への緑化を行い、また緑地の維持管理に必要な設備を設置した。			

 : 入力欄